

音楽と私

船橋シニアアンサンブル 高萩 良郎

私がクラリネットを手にするようになったのは、学生時代、仙台で映画「ベニー・グッドマン物語」を観てからのことでした。19歳の誕生日に両親からクラリネットをプレゼントされたことがきっかけになり、クラリネットの個人レッスンに通いました。大学の講義棟の片隅で、卒論・修論作成の合間にしばしば練習していたことや、1年ほどアマチュアの管弦楽団に入団して、東北電力ホールでベートーヴェン作曲の「交響曲第8番」を演奏したことが思い出されます。

就職してまもなく、社内のサークル「マンドリンクラブ」に入部し、クラリネット担当で活動しておりましたが、海外出張も長期となり2年ほどで退部してしまいました。海外出張先のアルジェリアにクラリネットを持ち込み、建設現場で忘年会の余興として、その年（1976年）のレコード大賞受賞曲「北の宿から」をフランス語翻訳版で合唱し、その伴奏を担当したことがエピソードとなっております。

その後、楽器を封印したまま約20年の歳月が流れましたが、長男の音大進学が引き金になって楽器を買い替え、ヤマハ音楽振興会が主催する「管楽器カラオケチャンピオンシップ2002」に伊藤楽器船橋店からと島村楽器津田沼店からエントリーし、「メモリーズ・オブ・ユー」を演奏して、それぞれ審査員特別賞、ショップ代表の表彰状をいただきました。残念ながら全国大会には落選しましたが、これも良い思い出となりました。

いわゆる西洋音楽（クラシック）との出会いは、大学1年、当時の下宿仲間の影響を受けて始まりました。特に、ベートーヴェンとモーツァルトの交響曲、どちらも大好きで性格の違いを対比させて聴き入っていたことが思い出されます。また、オーディオにも熱中していた時代でスピーカーキャビネットを自作し、高性能な管球アンプや当時4トラ38と呼ばれたオープンリールテープデッキ（現在も使用中）を買い込んで、北村英治クインテットや藤家虹二クインテットなどのジャズ演奏生録音会によく参加したものでした。そして、時間を作ってはアコーディオンが鳴り響く歌声喫茶で歌を歌い、バロック喫茶に出入りしてバッハやヴィヴァルディの音楽を聴く一方で、ジャズ喫茶（当時仙台に10店舗以上あり）に出入りしてモダンジャズ（当時はダンモと言っていた）に聴き入っていました。更に生の音楽に触れたくて、「労音」や「民音」でチケットを購入し、クラシックではN響、ウィーンフィル、ポピュラーではビリーヴォーン、エドモンド・ロス、グレンミラーなど仙台公演のコンサートには数多く出かけました。

2012年に自室をオーディオルーム、楽器練習室を兼ねたホームシアタールームに改装し、現在、快適な視聴環境で音楽・映像を楽しんでおります。楽器演奏に関しては、気の赴くままに2年前にはアルトサックスを購入し、クラリネットと一緒に個人レッスンの指導を受けています。また、半年前にはバス・クラリネットを購入し独習中です。人前での演奏経験では、昨年11月郷里のいわき市で高校同期の友人が退職後の仕事としてレストランを開店させたので、そのお祝いのイベントに便乗して、私にとって初めての「クラリネット・リサイタル」（休憩を挟んで全13曲のカラオケCD伴奏による独奏会）を開催しました。更に12月には高校同期でプロのテナーサックス奏者が率いるカルテットのジャムセッションに参加する機会があり、東京・蒲田のジャズライブハウスで「鈴懸の径」、「枯葉」を演奏して楽しむなど、かなり積極的にチャレンジしました。

今後ともSE活動を通してアンサンブル演奏を楽しむことは勿論ですが、小編成の、いわゆるコンボ演奏の楽しみ方も模索して行きたいと思っています。

